



## 2021年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年11月13日

上場会社名 株式会社ジェイエスエス  
 コード番号 6074 URL <https://www.jss-group.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤木 孝夫

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 田原 富夫

TEL 06-6449-6121

四半期報告書提出予定日 2020年11月13日

配当支払開始予定日

2020年12月11日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第2四半期の業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	2,763	37.5	85		83		321	
2020年3月期第2四半期	4,421	0.7	256	4.3	255	3.3	169	8.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	83.18	
2020年3月期第2四半期	43.42	

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	6,778	2,527	37.3
2020年3月期	6,701	2,868	42.8

(参考)自己資本 2021年3月期第2四半期 2,527百万円 2020年3月期 2,868百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		8.75		5.00	13.75
2021年3月期		7.50			
2021年3月期(予想)				7.50	15.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年3月期の業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,605	22.1	265		264		498		128.40

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	4,026,056 株	2020年3月期	4,026,056 株
期末自己株式数	2021年3月期2Q	158,372 株	2020年3月期	158,372 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	3,867,684 株	2020年3月期2Q	3,899,093 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1)本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(2)当社は、2020年11月17日にアナリスト・機関投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する四半期決算説明資料については、開催後速やかに、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期損益計算書関係) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大による急激な景況感の悪化に見舞われ、緊急事態宣言解除後の6月以降は経済活動の再開が順次進んだものの、依然感染症拡大の収束時期に見通しは立たず、感染防止策を講じながらの抑制的な社会経済活動を強いられる事となりました。

当社におきましては、緊急事態宣言が5月14日から5月25日に掛けて地域毎に段階的に解除されて以降、各種感染防止策の構築と徹底を図り、最大限安全に配慮した形で営業を再開する中で、当初は感染拡大の不安から休会者が増加したものの、7月以降は大半の休会者が復帰し、平時に近い状況となりました。

しかしながら、同感染症拡大の収束時期が見通せない中で、当社事業への影響が払拭出来ない状況が続きました。

夏季におきましては、小学校が休校した授業日数を補完する為に夏休み日数を短縮する中で、当該期間に例年実施している夏季短期教室も開催日数を縮小の上、集客を図りましたが、参加者は半減する事となりました。

また、企画課外活動につきましては、感染拡大防止の観点で合宿やキャンプなど自社施設外のイベントを自粛した為、大幅に縮小する事となりました。

社外への商品販売につきましても、コロナ禍でスポーツ施設事業者の営業が振るわず、催事も自粛される中、受注が大幅に減少する事となりました。

選手強化面におきましては、2020年9月に新潟県長岡市で開催された第96回日本選手権水泳競技大会飛込競技において、玉井陸斗選手（J S S宝塚）が男子3m飛板飛込で史上最年少（14歳0ヶ月）優勝、男子高飛込においても優勝し、2冠達成となりました。同大会においてはその他、東京五輪内定を決めている荒井祭里選手（J S S宝塚）が女子高飛込で優勝、同じく荒井祭里選手（J S S宝塚）と板橋美波選手（J S S宝塚）のペアが女子10mシンクロナイズドにおいて優勝するなど活躍を見せました。

このような営業施策に取り組みましたが、4月、5月の営業自粛等により第1四半期会計期間の入会者が伸び悩み在籍者数減少に繋がった事が影響し、当第2四半期末における全事業所の会員数は93,030人（前年同期比9.3%減）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は2,763百万円（前年同期比37.5%減）、営業損失85百万円（前年同期は256百万円の営業利益）、経常損失83百万円（前年同期は255百万円の経常利益）、四半期純損失321百万円（前年同期は169百万円の四半期純利益）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べ77百万円増加し、6,778百万円となりました。これは主に、投資その他の資産が104百万円増加した一方で、有形固定資産が24百万円減少したことによるものであります。

負債合計は、前事業年度末に比べ418百万円増加し、4,251百万円となりました。これは主に、短期借入金が593百万円増加した一方で、長期借入金が141百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、前事業年度末に比べ341百万円減少し、2,527百万円となりました。これは主に、利益剰余金が四半期純損失の計上等により341百万円減少したことによるものであります。

なお、当社はスイミングスクール運営事業の単一事業であるため、セグメント別、事業部門別の記載を行っておりません。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前第2四半期会計期間末に比べ27百万円減少し、624百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用した資金は393百万円となりました。これは主に、税引前四半期純損失が423百万円となったことによるものであります。また、前第2四半期累計期間に比べ使用した資金は746百万円増加しておりますが、主に税引前四半期純損失が679百万円増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は60百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が75百万円となったことによるものであります。また、前第2四半期累計期間に比べ使用した資金は42百万円増加しておりますが、主に有形固定資産の取得による支出が64百万円増加したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により得られた資金は438百万円となりました。これは主に、短期借入金の純増加額が593百万円となった一方で、長期借入金の返済による支出が127百万円となったことによるものであります。また、前第2四半期累計期間に比べ得られた資金は721百万円増加しておりますが、主に短期借入金の純増加額が593百万円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、2020年8月11日に公表した2021年3月期の業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日公表いたしました「特別利益及び特別損失の計上、2021年3月期第2四半期業績予想との差異並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	640,213	624,733
受取手形及び売掛金	100,847	114,534
商品	111,167	109,852
未収消費税等	—	24,030
その他	85,118	65,193
貸倒引当金	△1,612	△1,653
流動資産合計	935,735	936,691
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,716,292	2,883,798
土地	1,685,215	1,685,215
その他(純額)	502,827	311,107
有形固定資産合計	4,904,335	4,880,122
無形固定資産	32,685	28,769
投資その他の資産		
敷金及び保証金	693,746	678,623
その他	165,597	282,512
貸倒引当金	△30,915	△28,249
投資その他の資産合計	828,428	932,886
固定資産合計	5,765,449	5,841,778
資産合計	6,701,184	6,778,469
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	180,191	163,202
短期借入金	150,000	743,500
1年内返済予定の長期借入金	378,874	392,831
未払法人税等	75,756	43,113
未払消費税等	139,867	—
前受金	560,050	530,700
賞与引当金	96,585	96,403
その他	617,046	776,925
流動負債合計	2,198,370	2,746,677
固定負債		
長期借入金	1,301,607	1,159,829
退職給付引当金	95,913	91,559
資産除去債務	181,619	200,189
その他	55,254	52,841
固定負債合計	1,634,395	1,504,419
負債合計	3,832,765	4,251,097
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	330,729	330,729
資本剰余金	125,665	125,665
利益剰余金	2,512,179	2,171,133
自己株式	△100,155	△100,155
株主資本合計	2,868,418	2,527,372
純資産合計	2,868,418	2,527,372
負債純資産合計	6,701,184	6,778,469

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	4,421,490	2,763,218
売上原価	3,658,198	2,385,373
売上総利益	763,291	377,844
販売費及び一般管理費	507,267	463,144
営業利益又は営業損失(△)	256,024	△85,300
営業外収益		
受取利息	400	333
退職給付引当金戻入額	—	100
貸倒引当金戻入額	1,389	3,681
その他	829	1,375
営業外収益合計	2,619	5,490
営業外費用		
支払利息	3,337	3,319
その他	165	159
営業外費用合計	3,503	3,479
経常利益又は経常損失(△)	255,140	△83,289
特別利益		
固定資産売却益	671	99
助成金等による収入	—	184,637
特別利益合計	671	184,737
特別損失		
固定資産除却損	0	2,501
新型コロナウイルス感染症による損失	—	522,445
特別損失合計	0	524,947
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	255,811	△423,498
法人税、住民税及び事業税	78,830	12,751
法人税等調整額	7,669	△114,542
法人税等合計	86,499	△101,791
四半期純利益又は四半期純損失(△)	169,311	△321,707

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	255,811	△423,498
減価償却費	128,940	101,521
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,389	△2,625
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△5,433	△181
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△7,055	△4,354
受取利息及び受取配当金	△400	△333
支払利息	3,337	3,319
助成金等による収入	—	△184,637
有形固定資産売却損益 (△は益)	△671	△99
有形固定資産除却損	0	2,501
新型コロナウイルス感染症による損失	—	522,445
売上債権の増減額 (△は増加)	6,792	△13,686
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△3,307	1,314
仕入債務の増減額 (△は減少)	68,037	△21,392
未払金の増減額 (△は減少)	△11,218	190,891
未払費用の増減額 (△は減少)	△18,362	△19,617
未払又は未収消費税等の増減額	7,535	△163,955
前受金の増減額 (△は減少)	19,804	△29,349
その他	△15,947	8,382
小計	426,472	△33,354
利息及び配当金の受取額	400	333
利息の支払額	△3,423	△3,718
助成金等の受取額	—	184,637
新型コロナウイルス感染症による損失の支払額	—	△495,659
法人税等の支払額	△70,802	△46,186
営業活動によるキャッシュ・フロー	352,647	△393,948
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△10,814	△75,673
有形固定資産の売却による収入	671	100
無形固定資産の取得による支出	△7,800	△1,239
貸付けによる支出	△2,577	—
貸付金の回収による収入	2,611	1,527
敷金及び保証金の差入による支出	△1,895	△5,083
敷金及び保証金の回収による収入	1,831	19,991
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,972	△60,376
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	593,500
長期借入金の返済による支出	△196,348	△127,822
自己株式の取得による支出	△51,336	—
配当金の支払額	△29,643	△19,338
その他	△5,823	△7,494
財務活動によるキャッシュ・フロー	△283,151	438,845
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	51,523	△15,479
現金及び現金同等物の期首残高	600,603	640,213
現金及び現金同等物の四半期末残高	652,126	624,733



(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

新型コロナウイルス感染症防止の為、政府や地方自治体の要請により臨時休業した期間中に、店舗において発生した人件費に対する雇用調整助成金等184百万円を、助成金等による収入として特別利益にて計上しております。

また、当該休業期間中等に店舗において発生した固定費（人件費・賃借料・減価償却費等）522百万円を、新型コロナウイルス感染症による損失として特別損失に計上しております。